

令和2年 丹波市10大ニュース 一覧

【企画総務部総合政策課】

	タイトル及び説明
●	新型コロナウイルス対策本部を早期に立ち上げ対策支援に取り組む 2月28日、県下でいち早く新型コロナウイルス対策本部を立ち上げた。市民や事業者に向けて感染予防・健康対策、学校休業対策、事業者支援、生活安定対策、庁舎体制及び広報（行政対策）の分野ごとにきめ細かな対策を展開した。 4月27日、10万円給付事務を円滑に推進するため、くらしの安全課に特別定額給付金係を設置し迅速な給付業務を行った。 市内中小企業者の事業継続支援では、資金繰りのための支援として信用保証料補助をはじめとし、まちの飲食店応援プロジェクト、事業継続応援金、店舗等家賃補助、販売促進補助、プレミアム商品券の発行など段階に応じた独自支援策を展開した。 また、コロナ禍での感染防止対策により、オンライン会議システムZoomなどを活用した会議や授業・研修など新たな勤務・研修スタイルが急速に展開した。
●	第3代丹波市長決まる・林市政がスタート 11月15日に丹波市長選挙が執行され、林時彦氏が第3代丹波市長に選ばれた。 林時彦新市長は、市政の舵取り役を担い、市民が誇りを持って「帰ってこいよ」と言える新たなまちづくりに向けた取り組みがスタートした。
●	ギネス認定！世界最小の恐竜卵化石発見 山南地域の篠山層群で平成31年に実施された発掘調査により多数の小型獣脚類の卵・卵殻化石が発見された内の1種類、「ヒメウーリサス・ムラカミイ」が、5月23日、新卵属・新卵種の世界最小の恐竜（非鳥類型恐竜）の卵化石としてギネス世界記録に認定された。「ヒメウーリサス・ムラカミイ」の学名は、本化石群の発見や調査に大きく貢献した村上茂氏に由来。 これまでに篠山層群では6種類の卵・卵殻化石が論文に記載報告されており、日本最大の恐竜卵化石の宝庫として今後の発掘調査が期待される。
●	日本初！神戸大学との認知症予防・健康寿命延伸のための共同研究がスタート 8月11日、市と神戸大学は、認知症を予防し、日本初となる健康寿命を延ばすための共同研究事業に関する協定を締結した。 65歳以上86歳以下で高血圧や糖尿病など、一定の要件を満たす市民の方を対象に、頭と体を同時に使った2重課題運動や認知症予防トレーニングを受けてもらうことで、認知機能の低下を抑制できるかどうかを検証する。204名の参加者を前半後半のグループに分け、それぞれ18か月間取り組み、3年間の研究から得られた成果を今後の認知症予防に活用する。
●	開館1周年を迎え市民プラザ来館者が10,000人に到達！ 令和元年10月にオープンした「市民プラザ」は、8月26日に来館者が10,000人を超えた。市民プラザでは、地域づくりや男女共同参画、子育てなど、市民によるまちづくりに関する様々な相談や要望に応える交流拠点として開設している。 また、オンラインによる会議や講座の実施など、コロナ禍における社会的課題などにも対応できる環境を整え、今後も市民のニーズに応じたまちづくり活動を応援していく。

	タイトル及び説明
●	国道429号榎峠バイパス事業化が決定 3月31日、国道429号榎峠バイパス事業が国土交通省が新たに創設した「都府県境道路整備補助事業」の該当第1号として事業化が決定し、令和8年度の事業完了を目指す。 榎峠は丹波市と福知山市を結び、峠通過に約25分を要する同路線は、トンネル化により約6分へと大幅に短縮する。また、交通隘路の解消が図れるため、近畿地方の南北に走る高速道路網を東西に結ぶ道路として機能するほか、災害に強いネットワークを形成し、緊急医療活動の支援及び、交流人口拡大による地域観光振興の活性化の促進などが期待される。
●	国道175号東播丹波連絡道路の早期事業化に向けた取り組みが加速 国道175号早期整備促進協議会の事業対象地域である山南・氷上地域の住民だけで組織していた地元協議会では、市民の気運を高め、より力強い要望活動を展開するため、「オール丹波市」として市内全域の住民が参加する組織改編を行った。 また、10月17日、国道175号「東播丹波連絡道路」の早期実現を目指す第1回促進大会を開催した。未整備区間を抱える西脇・丹波両市の住民代表者と行政による実行委員会の主催。大会では、同路線の重要物流道路指定や、西脇市黒田庄町から丹波市氷上地域間の早期事業化を求める要望書を地元選出国會議員らに提出した。
●	市島地域小学校統合の是非が決定 6月30日に市島地域市立小学校統合検討委員会を発足し、委員会で市島地域内の市立小学校の統合の是非について協議を重ね、11月18日の第4回検討委員会において、統合する前提で議論を進める方針が決定された。 今後は、市島地域内の市立小学校の統合に向けた組織の検討や統合の形式、具体的な統合の時期について協議を進める。
●	重点「道の駅」選定「丹波おばあちゃんの里」再整備がスタート 地方創生や地域活性化の拠点の形成を目指し、1月24日に国土交通省より重点「道の駅」に選定された丹波おばあちゃんの里の農産物の流通拠点機能の拡大及び、北近畿・市内の周遊観光の推進に向けた再整備がスタートした。 令和2年度は、物産館売場面積の拡張や市内外の観光情報拠点施設の整備、駐車場の増設やトイレの新設、公園の充実など令和4年度中のリニューアルオープンを目指して、再整備への実施設計に取り組んだ。
●	植野記念美術館「山本二三展」～コロナ禍でも13,000人突破の大盛況～ 夏の特別展として「日本のアニメーション美術の創造者 山本二三展」を7月18日（土）から9月13日（日）まで開催した。 スタジオジブリ作品など数々のアニメーションの背景画を描いた美術監督・背景画家の山本二三による「天空の城ラピュタ」、「火垂るの墓」、「もののけ姫」、「時をかける少女」などの背景画の原画、スケッチなど約230点を展示した。会期中の入館者は13,000人を超え、「山下清展」、「水木しげるの妖怪道五十三次展」に続き歴代3位の入館者を数えた。